

## 第2回紫電改展示館整備検討委員会の開催結果

1 委員会の名称 紫電改展示館整備検討委員会

2 開催日時 令和5年9月7日（木曜日）午後1時30分から午後3時00分まで

3 開催場所 いよてつ会館4階会議室

4 出席者 委員5名、事務局6名、設計業者3名

5 審議事項（議事）

- (1) 新しい展示館の概要案について
- (2) 今後の予定について
- (3) 意見交換

6 審議の内容（部分公開）

議事（1）新しい展示館の概要案について

- 事務局から設計業者の選定方法について説明した。
  - ・今回の業務は象徴性や芸術性、独創性に加え専門的な技術が必要な業務であることから公募型プロポーザル方式で業者を選定した。
  - ・4月に募集を開始し、5者から技術提案書の提出があり、7月にプレゼンテーション審査を経て遠藤克彦建築研究所と契約を締結した。
- 遠藤克彦建築研究所から設計業者選定時に提案した案について概要を説明した。
  - ・会社概要を説明。
  - ・「かつて紫電改が飛んでいた空」「引き揚げられた実機」「発見場所の久良湾」この3つが同時に眺められる場所として建築の形にすることが大切であると考えた。
  - ・建物は久良湾に軸をむけて、その中に紫電改を収めた正三角形のプランを計画している。
  - ・2階から入り、入った瞬間に実機が眺められる。展示スペースを兼ねた緩やかなスロープを降りると、間近に実機を見られ、さらにその奥のスペースに展示室や多目的室がある。さらに奥に階段があり、2階へ帰るという一筆書きで建物全体を回れる計画としている。
  - ・スロープは高いところから低いところに歩くことができ、実機を高さを変えて眺めることが可能。
  - ・3面あるうち、1面は空に向かって開けていて、開放感のある建物になっている。周囲の2つの壁は鉄筋コンクリート造、屋根の梁は県産材を使ったは木造で考えている。
  - ・この建物がクサビのようであり、遠くから眺められる。そういう建物を目指している。
  - ・この案は、愛媛県が作ったプロポーザルの要綱を基に形にしたもので、今後、意見をいただき、またこの地域特有の気候や条件を踏まえて、最終的な形にしていくことになる。
  - ・よりよい館となるよう関係者と協議を進めていくので、多方面からの検討をいただきたい。

議事（２）今後の予定について

○事務局から今後の予定について以下のとおり説明した。

- ・第３回の委員会は１０月に実施する予定。
- ・第３回では、愛媛県から提案する展示計画案について委員から意見を伺う予定。
- ・第４回目以降は、設計業務の進捗に合わせて実施する予定。

７委員会での主な意見

- これまでは紫電改にのみ注目が当たっていたが、今回の建物は空と海があって、引き揚げられた情景に入っていける建物であると感じた。
- 引き揚げられた場所としての記憶が薄れる中で、このような計画は地元にとってもありがたい。
- 車椅子の方への配慮はなされているか。  
→バリアフリー施設となっている。スロープの他、エレベーターも設置する計画。
- 防災（特に風に対して）対策は大丈夫か。  
→周辺で過去に観測された瞬間最大風速以上の値で耐風圧を検討予定。
- 防犯対策はどのように考えているか。  
→テラス部分へ進入できない対策を検討している。さらに展示エリアを施錠することで２重対策も考えられる。
- 崖に設置するが、地盤は大丈夫か。  
→今後、地盤調査を実施し、安全を確保する設計をしていく。
- 景観確保のためには、樹木の伐採が必要だと思う。将来的な維持管理に問題はないか。  
→樹木の管理を実施するための管理道を検討することとしている。
- 現在のアクセス道路は幅員が狭くバスでの進入は困難であると感じた。対策は実施するのか。  
→展望タワー撤去のための大型車両が通行できるよう、現在、設計を実施中。この対策により、新しい展示館へのバスのアクセスも向上する。
- テラスは外からも進入できるのか。  
→進入は可能。ただし、有料化も検討しているため、施錠も検討中。
- この施設に入らなければ、この景色が見られないということは、施設の強みになると思う。運営や運用の検討も必要になるが、無料で利用できる公園部分との差別化があってもよい。
- オーバーツーリズムは、他の観光地で問題となっている。この施設も、バスが渋滞を起こす可能性も考えられる。対策の検討が必要。
- 維持管理には人件費もかかるため、有料施設として良いと思う。

〔整備検討委員会事務局〕  
土木部道路都市局  
都市整備課公園緑地係  
電話 089-912-2749  
FAX 089-912-2744